

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成24年2月28日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2012
2月
やま
かい
どう



CONTENTS

- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から
神畑遺跡(足利市) 市ノ塚遺跡(真岡市)
北ノ内遺跡(市貝町) 和田遺跡(足利市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査・整理作業から
大谷1遺跡(真岡市) 車塚古墳群(壬生町)

- 竹下遺跡(宇都宮市)
烏山城跡(那須烏山市)
- 特集 土偶の謎に迫る!
○先人たちとの出会い -埋蔵文化財センターの20年-
○埋蔵文化財センター収蔵庫の遺物 -ひとむかし前に調査された遺物から-

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1. 神畑遺跡(足利市) -北関東でやって来た?山形土偶-

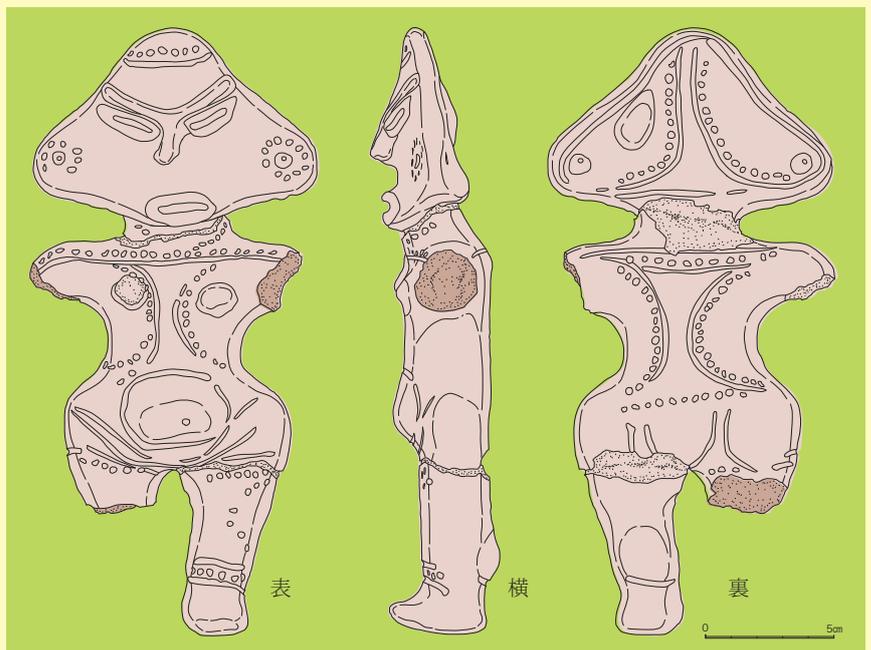
栃木県を横切るように建設された北関東自動車道は、平成11年3月19日に水戸と高崎を結ぶ全線が開通し、人や物が動く大動脈としてその機能を十二分に担っています。平成6年より開始した北関東建設地内に存在する遺跡の発掘調査は、都合50箇所を数えますが、その中の一つに足利市菅田町地内の神畑遺跡があります。

神畑遺跡は、今から約3,500～2,700年前頃の縄文時代の遺跡です。低地に作られたため、決して住み心地の良いものではなかったと思われそうですが、逆にこのことが幸いして、食料としたトチ・クリ・クルミ等の木の実や住居の建築材など、通常の遺跡では見られないような遺物が数多く発見されました。また、土器や石器も大量に出土しています。特に、弓矢の先端に付ける石鏃は未製品を含めると600点にもものぼり、同時に石鏃の製作に関係する道具類も発見されています。まさに石鏃製作工場であったと言えるでしょう。

その他、神畑遺跡を代表する遺物に、頭が三角の山形から名が付けられた「山形土偶」があります。残念ながら、両腕と右足を失っていますが、全長24.5cmは発見されている山形土偶内にあって最大級に匹敵します。もともと山形土偶は、茨城県の霞ヶ浦から千葉県印旛・手賀沼周辺を中心に作られました。本場物と比べてまったく遜色のないこの土偶は、北関東とも言える縄文時代のルートで運ばれました。いったい、神畑遺跡の石鏃何個と交換できたのでしょうか。



山形土偶の出土状況



山形土偶実測図

2. 市ノ塚遺跡（真岡市）－原初期なカマドを持つ住居跡を発見－

市ノ塚遺跡は、真岡市高田に所在します。今回の調査は県道つくば真岡線改良工事に伴うもので、親鸞しんらんが開いたことで有名な高田山専修寺せんじゅうじの東0.3 km、小貝川右岸の台地縁辺部に位置します。発見された遺構及び遺物は縄文時代と古墳時代・中世のものです。

縄文時代では、台地の東側縁辺から落ち際にかけて、獣を捕るための落とし穴がたくさん発見されました。平面形は楕円形で、底面が長方形に近いものが多く、形状から縄文時代早期（約7,000年前）ものと思われます。

古墳時代では、住居跡が12軒発見されました。前期から中期（約1,600年前）にかけてのもので、炉を持つ住居跡と原初的なカマドをもつ住居跡が認められます。炉内からは、支脚状の粘土塊を3個用いて三徳状に配置したものが元位置を保った状態で出土しました。炉からカマドへの移行を知る上で、県内では貴重な発見となりました。また、遺存状態はよくありませんが、一辺が10 m程の大形住居跡も検出されました。

出土遺物では、前期の住居跡から瑪瑙めのうの勾玉と鉄鏃まがたまが出土していることが特筆されます。



竪穴住居跡の遺物出土状況



発掘調査区

3. 北ノ内遺跡（市貝町）－犬？猫？足跡の正体は？－

地域有力者の居宅ではないかと考えられる北ノ内遺跡。今回は、整理作業からの報告です。

須恵器のフタの破片を洗っていた時のこと。泥を落とすと何やら動物の足跡らしき痕跡。これはネコの足跡に違いない!!と大騒ぎ。出土場所は、竪穴建物跡の床の上から。観察すると、土器を乾燥させている際についてたもので、足跡は前後に4 cm、幅が3.7 cmの大きさ。

動物の専門家に見てもらおうと、形状からはイエネコ・タヌキ・イヌ。大きさから見ると、イヌの可能性が強いとのこと。確かに、土器は乾燥して縮み、窯で焼かれて縮みます。そうすると一回り大きいのが本来の足跡。そして、実体顕微鏡でよくよく見ると、何やらツメのような痕跡が…。ツメがあつては、ネコの可能性はゼロ。イヌに軍配が上がりました。

奈良時代、益子の須恵器工人村では、フタの部品を板の上に並べ、地面に置いて乾かしていました。すると、その上を白いイヌが一匹、駆け抜けていきます。そんな光景を想像してみるのも面白い（尾も白い）かも。



肉球の痕跡（指に力が入った状態）

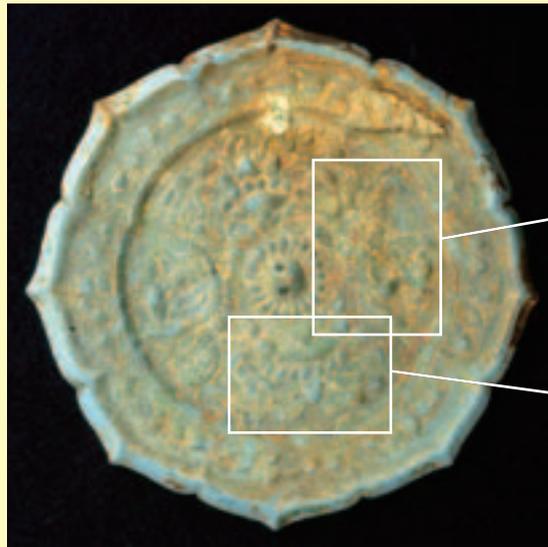


足跡を白く塗ってわかりやすくしました

4. 和田遺跡（足利市）—八稜鏡のみつかったムラ—

和田遺跡は足尾山脈南端部の尾根と尾根の間に位置する古代のムラです。遺跡からは平安時代（約1,000年前）に日本で作られた和鏡が見つかりました。瑞花双鳳八稜鏡ずいかそうほうはちりょうきょうと呼ばれ、八つの稜がある外形で中央に丸いツマミを持ち、その周りに二羽の鳳凰と二つの瑞花を配置しています。八稜鏡は、足利市の市章にもなっています。この鏡は今と昔のつながりを感じさせる貴重な資料といえるでしょう。

また、和田遺跡からは、栃木県内で3遺跡目の発見となる「土師器焼成遺構」が見つかりました。ムラの中で7世紀頃土器を焼いた跡で、県内で最も古い例になります。右図の一番上にある丸い部分が煙突で、楕円形のところに土器を並べたようです。遺構内からは失敗品も出土しました。住居からたくさん出てくる土師器坏などの一部は、ムラの中で作られていたでしょう。



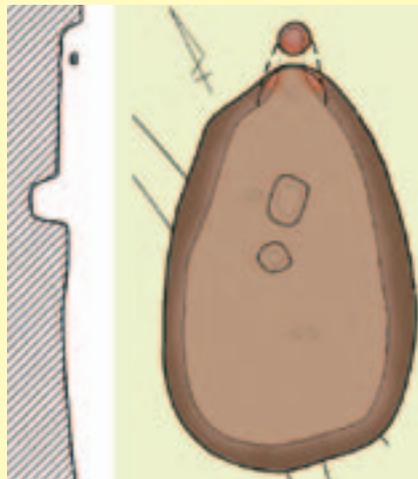
瑞花双鳳八稜鏡



鳳凰



瑞花



土師器焼成遺構



失敗品の土師器坏



住居跡出土の土師器坏

市町教育委員会が実施した発掘調査・整理作業から

5. 大谷 I 遺跡（真岡市）—奈良・平安時代の集落跡を調査—

大谷 I 遺跡は、五行川西岸の台地縁辺に立地します。周辺は宅地化が進んでいますが、現在までに奈良・平安時代の竪穴住居跡が6軒見つかっています。今回の宅地造成前の確認調査では3軒の竪穴住居が見つかり、このうち保存が不可能な2軒について発掘調査を行いました。

両竪穴住居とも奈良・平安時代のもので、大きさは約4m四方、北側に煙道のやや長いカマドが付設されています。柱穴は両住居ともなく、1軒は壁際に溝が巡らされています。出土遺物は、土師器の甕かみ、須恵器の坏ぼうすいしやと甕とうがあり、1軒からは灰釉陶器破片と石製紡錘車、鉄製刀子すなども出土しています。

（真岡市教育委員会 0285-83-7731）

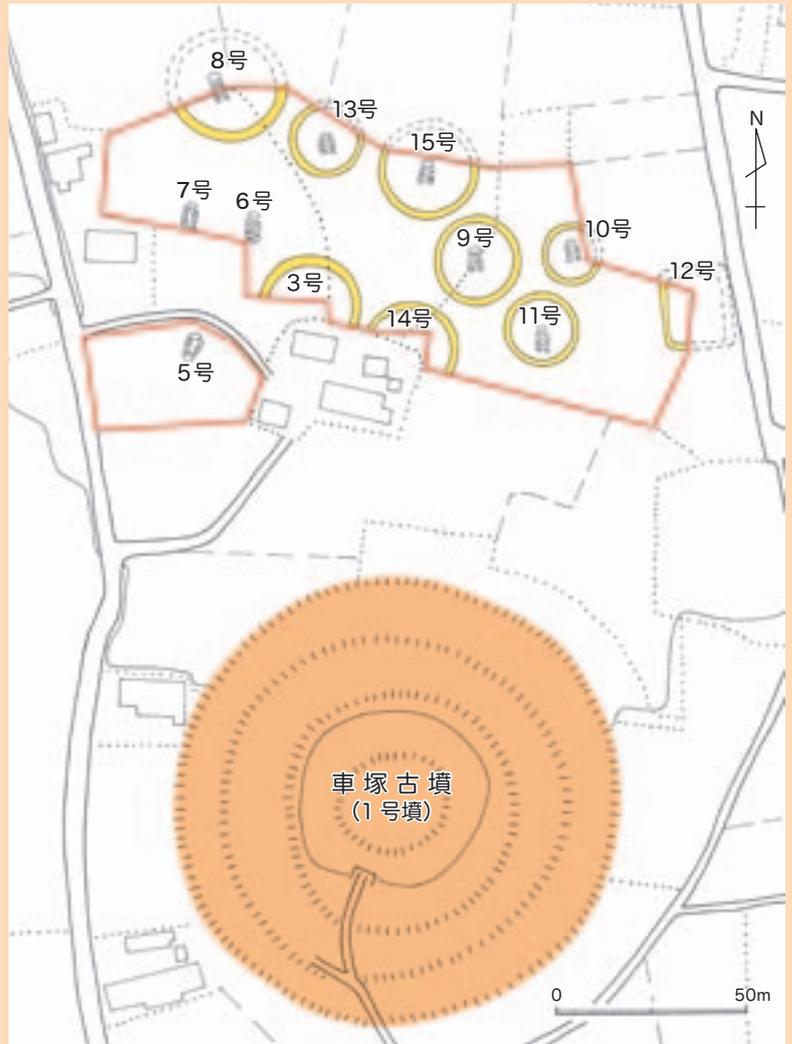


2号住居跡完掘状況（南から）

6. 車塚古墳群（壬生町）—水田の下から現れた古墳群—

車塚古墳群は、国の史跡となっている車塚古墳と牛塚古墳を中心として築かれた古墳時代でも終わり頃の古墳群です。最近までは、両古墳の他は円墳3基と小さな石室のみからなる小規模な古墳群と考えられ、古墳が造られた時期についても、車塚古墳と牛塚古墳が造られた後に、円墳や小規模の石室が造られたものと推測していました。

しかし、近年の車塚古墳群の発掘調査によって、円墳9基・方墳1基(?)・小規模な石室のみの古墳3基が新たに確認されました。特に、直径が20mを上回る円墳も数基確認され、死者を埋葬する川原石で造られた石室は、その特徴から車塚古墳や牛塚古墳よりも古い時代に造られた古墳であることが明らかになりました。また石室内からは、瑪瑙製の「勾玉」、水晶製の「切子玉」や金銅張の「耳環」などが多く出土し、15号墳からは成人の人骨の一部が出土しました。車塚古墳群については、周辺の地形などからさらに北側に拡大すると考えられ、水田の下に今も眠っている古墳が多数存在すると思われます。



車塚古墳群全体図

以上から、車塚古墳群の成り立ちは、まず最初に埴輪を墳丘上に並べた「車塚3号墳」を中心に、円墳約20基からなる古墳群が造られます。時期的には6世紀の後半代です。つぎに、6世紀の末から7世紀の前半の時期に、牛塚古墳、そして車塚古墳が相次いで造られます。最後に川原石で造られた石室のみの古墳が、車塚古墳の周辺に造られて、同地域の古墳時代は終焉を迎えるようです。

みぶ地域の古墳は、石室を地下に造るため、地上の墳丘が破壊されても、水田の下などから石室のみが出土することがたびたびあります。
(壬生町教育委員会 0282-82-8544)



車塚13号墳石室



車塚古墳群出土「石製首飾り」と「耳環」

7. ^{たけした}竹下遺跡（宇都宮市）—縄文時代の土坑から大形土器が出土—

竹下遺跡は、鬼怒川東岸の台地上に立地し、近くには国指定史跡の飛山城跡とびやまじょうあとが所在します。今回の発掘調査は、東日本大震災により被害を受けた個人住宅の移転に伴うもので、本遺跡の調査としては第9次目となります。これまでの調査で本遺跡は、縄文時代の中期～後期にかけての大規模な集落であることが判明しています。

今回の調査区は竹下遺跡のほぼ中央に位置し、袋状土坑を含む土坑群と竪穴住居跡が複雑に重なり合った遺構の密度が濃い場所であることがわかりました。7号土坑（袋状土坑）の小ピット内からは、右下写真のような高さ55cmの大形の深鉢形土器がほぼ完形で出土しています。この他にも多量の縄文土器と石器が出土しました。（宇都宮市教育委員会 028-632-2764）



重複する土坑の様子



縄文土器の出土状況

8. ^{からすやまじょうあと}烏山城跡（那須烏山市）—城主の建物跡の確認—

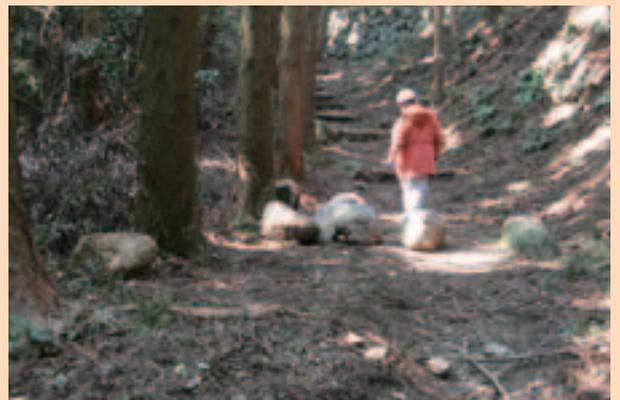
烏山城跡は、今年の3月11日に発生した大地震によって大きな被害を受けました。至る所で土砂崩れや亀裂が発生し、石垣の一部が崩落するなど、一時は危険なため立ち入れない状態となりました。発掘調査は、8月下旬から開始しましたが、9月に上陸した台風15号によって城跡の被害がさらに拡大し、調査区の一部が倒木で破壊されるなど、自然災害の恐ろしさを感じながらの調査となりました。

本年度の調査は、本丸東側部分の地ぶくれ状の高まりに調査区を設け、遺構の確認作業を行いました。その結果、建物の礎石と思われる多数の石列や敷石状のものを確認することができました。これらは、石の配列や種類や大きさの違いなどから、複数棟の建物と数度の建て替えがあったことが考えられます。残念ながら、時期を推測できるような遺物の出土がなかったため、建替えの時期などは良く分かりませんでした。

（那須烏山市教育委員会 0287-88-6233）



石列・敷石の出土状況（北西から）



地震で崩れ落ちた石垣の積み石

特集 土偶の謎に迫る！

縄文時代の代表選手として、縄文土器と同じくらい有名なものが土偶です。細い目をしたおデブさんの遮光器土偶や、まん丸おめめのみみずく形土偶など、誰もが一度は見たことがあるでしょう。このユニークな表情や形をした土偶、実は意外に謎だらけなことは知っていますか？一緒に、その謎に迫ってみましょう！

【土偶って何だろう？】

土偶は、簡単に言えば「土で作られた人形」のことです。縄文時代の日本に作られた土偶は世界的にも有名ですが、実はヨーロッパやアジアなど、世界各地のいろいろな時代のもが発見されています。日本では、今から約1万年以上前の縄文時代が始まった頃（草創期）から作られていることがわかっています。



最古の土偶 (三重県菟見井尻遺跡)

小さな粘土のかたまりのようですが、頭と乳房が表現されています。長さ約6cmのとても小さなものです。

日本全国で、いろいろな顔や形の土偶がたくさん見つかっています。ここにあるのは、有名なものばかり。みなさんはいくつ知っていますか？



- ① 青森県三内丸山遺跡（中期）
- ② 岩手県手代森遺跡（晩期・重文）
- ③ 山形県西ノ前遺跡（中期・重文）
- ④ 茨城県椎塚貝塚（後期）
- ⑤ 埼玉県滝馬室遺跡（晩期）
- ⑥ 群馬県郷原遺跡（後期・重文）
- ⑦ 長野県棚畑遺跡（中期・国宝）
- ⑧ 奈良県観音寺本馬遺跡（晩期）



【何のために作ったの？】

土偶がなぜ作られたのか、確かなことはわかりません。しかし、多くの土偶が妊婦やお母さんを表していることから、安産や子孫繁栄を願って作られたのではないかと考えられています。

子どもを抱く土偶（東京都宮田遺跡）

横座りしたお母さんが、あどけない赤ちゃんを胸に抱えています。

栃木の土偶大集合！

栃木県でも、縄文時代の後半(約3,800～2,500年前)に作られた土偶がたくさん見つかっています。ほとんどが小さい破片ですが、完全な形のもの比べると、体のどの部分かがよくわかります。

ハート形土偶

a. ハットヤ遺跡
(さくら市)



柴原A遺跡
(福島県)



b. 荻ノ平遺跡
(那須烏山市)



c. 三輪仲町遺跡
(那珂川町)

頭の形がハート形をしていることから呼び名がつけましたが、丸い形のものも多く見られます。太い足に比べて胴体はとてもスリムで、一見人間とは思えない姿が特徴的です。栃木では頭の形が丸く、胸やお腹が丸く膨らむものが多いようです。

ミミズク形土偶



e. 御霊前遺跡
(益子町)



d. 後藤遺跡
(栃木市)



滝馬室遺跡
(埼玉県)



f. 藤岡神社遺跡
(栃木市・重文)

丸い目と口がミミズクに似ていることから名付けられました。髪の毛を結っているような頭の形が多く、櫛や耳飾りを付けているなど、とてもおしゃれな土偶です。栃木では、これらの飾りが簡単になっているものが多いようです。

山形土偶



g. 神畑遺跡
(足利市)



椎塚貝塚
(茨城県)



h. 後藤遺跡
(栃木市)



i. 八剣遺跡 (壬生町)

頭の形がおむすびのような三角形で、反り返った手の形がユニークな土偶です。眉・目・鼻・口は粘土紐で表現されています。また、胸やお腹がはっきりと膨らむのが特徴です。栃木では、頭の形が楕円形になったものや、目・鼻・口が線や小さい穴で表現されるものも多く見られます。

しゃこうき 遮光器土偶



j. 刈沼遺跡
(宇都宮市)



手代森遺跡
(岩手県)



k. 御霊前遺跡
(益子町)



l. 寺野東遺跡
(小山市)

最も有名な「究極の土偶」です。目が、極北民族の遮光器(雪眼鏡)に似ていたことから呼ばれるようになりました。土器と同じように粘土紐を積み上げる「輪積み」と呼ばれる方法で作られるため、中が空洞になっています。体に施された華麗な装飾が特徴的ですが、栃木では装飾が簡単になったものが多いようです。

◆ 先人たちとの出会い ―埋蔵文化財センターの20年― ◆

埋蔵文化財センターは、平成3年4月に発足し、今年20年を経過しました。この間、栃木県内約370遺跡の記録保存のための発掘調査を実施し、各時代の多くの出土遺物を保管・管理しています。

そこで、宇都宮市本町にある同じ財団の栃木県総合文化センターで開催された『とちぎ文化フェスティバル2012』において、1月28・29日の両日、「先人たちとの出会い―埋蔵文化財センターの20年―」と題し、過去20年間の出土遺物の中で特に重要なもの536点を展示しました。わずか2日間でしたが約1,000人の来場者で賑わい、職員の熱心な説明に耳を傾け、県内各地で出土した旧石器時代から中世の遺物に見入っていました。

また、土器パズル、瓦や縄文土器の拓本などの体験イベントにも、子ども連れの家族をはじめ多くの方々にチャレンジしていただきました。



埋蔵文化財センター収蔵庫の遺物 ―ひとむかし前に調査された遺跡から―

編み籠のあとが残る壺 ―宇都宮市花の木町遺跡―

この壺は、今から29年前の昭和59年に、子ども総合科学館の建設に伴う発掘調査で、古墳時代前期の終わりころ（約1,600年前）の竪穴住居跡から出土したものです。編み籠そのものは残っていませんが、土器面に接着していた籠材の部分が当時の色調をとどめ、それ以外の部分が長い間の日焼けや燻れにより変色していることから、籠で包まれていたことがわかります。竪穴住居内の棚などに一定期間安置されていたのでしょうか。

このような編み籠に包まれた壺は、弥生時代の始まりの頃（約2,300年前）にはすでに近畿地方でみられ、次第に東方に広がっていきます。栃木県では古墳時代になってから出土し、これまで9遺跡で10例ほど確認されています。水稻耕作に関連する特殊な壺で、中には稲粳を入れていたとも考えられています。



胴部に斜格子状に残るのが編み籠のあと

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及事業担当まで TEL 0285-44-8441

